

第4回 蒲郡南地区

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

日時：平成30年12月16日（日）

午後1時30分～午後4時30分

会場：蒲郡中学校 図書室

主催：蒲郡市

プログラム

開会	1：30
趣旨と経緯について ・ワークショップの趣旨・目的 ・進め方とスケジュール ・前回ワークショップでの議事概要	1：35
オープンハウス（パネル展示型説明会）結果概要	1：55
地区利用型施設再配置プラン案について ・再配置プラン案の追加 ・再配置プラン案の評価・比較	2：00
（休憩）	2：20
グループ討議 ・評価の内容についての確認と修正提案	2：30
（休憩）	4：00
発表	4：10
事務連絡	4：25
閉会	4：30

<目次>

- ・ワークショップの趣旨・目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ・進め方とスケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ・第3回ワークショップの結果概要（案）・・・・・・・・・・・・ 3
- ・第3回ワークショップふりかえりシートご意見・・・・・・・・ 14
- ・ご質問等への回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- ・評価の視点についてのご意見への回答・・・・・・・・・・・・ 21
- ・蒲郡南地区 地区利用型施設再配置プラン案・・・・・・・・ 24
- ・再配置プラン案の評価検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
- ・本日の検討内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
- ・（別冊）項目ごとの評価の解説
- ・（別冊）蒲郡南地区オープンハウス（パネル展示型説明会）結果概要

ワークショップの趣旨・目的

蒲江市では、急激に変動する社会情勢に対応した公共施設の機能配置や魅力向上を図るとともに、将来に大きな負担を残さない行財政運営を実現するために、公共施設マネジメントの取り組みを進めています。

これまでに市民の皆様のご意見を伺い、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」と「蒲江市公共施設マネジメント実施計画」を策定し、今後の公共施設の整備を進めるための道筋を示しました。

その計画では、小中学校、保育園、児童館及び公民館（地区利用型施設）の再編にあたっては、中学校区単位で住民の皆様のご意見を伺い、施設再編計画となる「地区個別計画」を策定することとしています。

このワークショップは、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」を踏まえ、これから起こる様々な社会の変化や地域の課題に対応した既成概念にとらわれない、より良い公共施設の配置や使い方を考えるために開催するものです。

蒲江市公共施設マネジメント基本方針

- ①適正化 将来を見据えた維持可能な施設規模に適正化します。
- ②効率化 効率的・効果的な維持管理を実施します。
- ③魅力 社会変化に対応した魅力ある公共施設へ再編します。
- ④安全性 計画的な保全により公共施設を安全に維持します。
- ⑤実行力 公共施設の再編に向けて実行体制を構築します。

市は、皆様のご意見を反映させた蒲郡南地区（蒲郡中学校区）の「地区個別計画」を策定し、施設の再配置を進めることで、“住んでよかった”“住み続けたい”と思えるような誇りと愛着を持てるまちづくりを目指します。

進め方とスケジュール

1 検討のステップ

市は、ワークショップ等で得られた成果をもとに、「地区個別計画」の策定に向けて次の5つのステップに分けて、段階的に検討を行います。

ステップ1 ワークショップ等を通じ、地区個別計画をどのような手順で策定するか確認します。

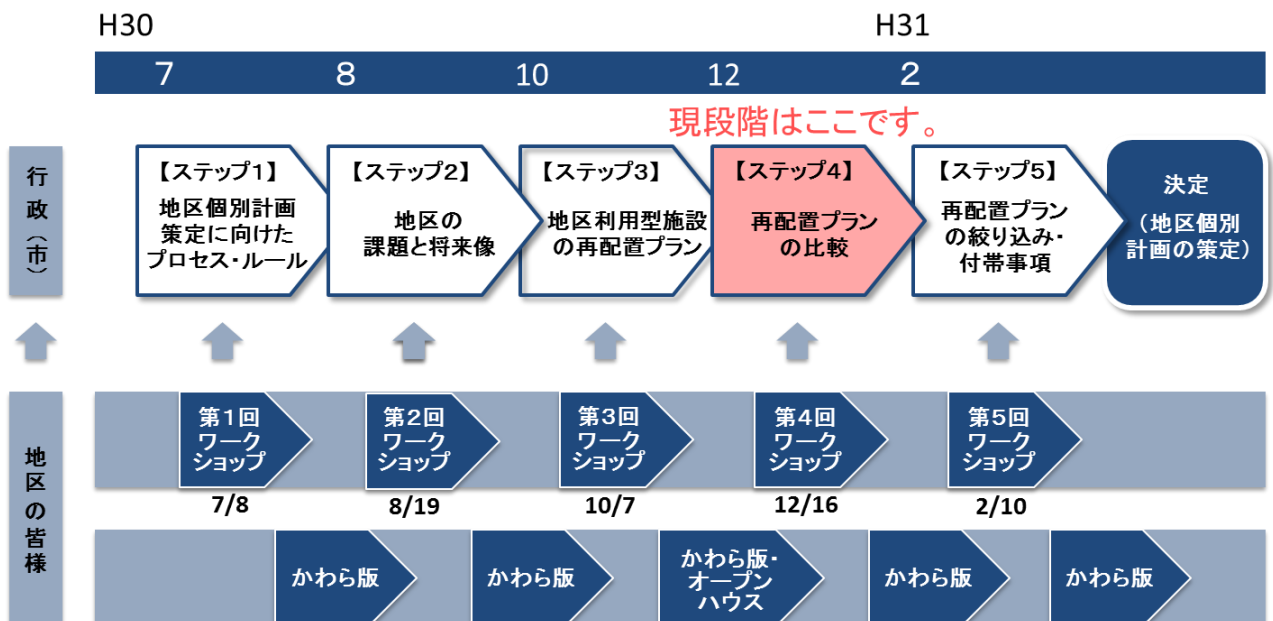
ステップ2 地区にどのような課題があるか確認して問題意識を共有します。

ステップ3 課題解決に向けた方策について共有し、複数の再配置プランを検討します。更に、複数の再配置プランを比較するための評価の視点について検討します。

ステップ4 複数の再配置プランをステップ3で検討した視点に基づき評価し比較します。

ステップ5 再配置プランを絞り込むとともに、運営面での工夫等の付帯事項について整理します。

2 スケジュール（予定）



第3回ワークショップの結果概要（案）

1 再配置プラン案に対する意見

1) 全案共通

- 学校区と行政区の不整合により、地域のお祭りがあっても地域の学校に通学していないことで参加できなかつたり、大人が見守りをする際に、通学中の児童がどこの小学校に通っているかわからなかつたりするため、地域と学校の人間関係の枠組みは同じであってほしい。
- 竹島小学校ができて数十年が経過し、竹島小へ通学した保護者もいて愛着も生まれているようだ。一度、地域に根付いた学校区を元に戻すのは難しいだろう。いずれにせよ当事者が判断すべきだ。
- 三谷小学校区と竹島小学校区のように、学校区と行政区がちぐはぐなエリアを元の学校区に戻すことで、その不整合を解消するかどうかについては、変更することで影響を受けるであろう住民やその子ども、また、三谷の歴史を大切にしたい方などの関係ある方々の意見を聞く必要がある。さらに、その際は記録を残してほしい。
- 小学校を統合するかしないかを検討するのであれば、統合した場合は費用がどの程度削減できるかなど、統合することでのメリット、デメリットを確認した上で検討をしたい。
- 南部小学校、竹島小学校のどちらの小学校に統合するか、また、統合をしないかについては、ワークショップの参加者のみで決めることではない。直接関係のあるご家庭や、今後影響があるご家庭の意向、また、小学校PTA、教職員等、当事者の意見を聞くべきである。その結果を尊重しながら検討していきたい。
- 小学校の統合や蒲郡南地区の学校規模の検討については、蒲郡南地区の人口動向など未知の事柄も多く、早急に判断しない方がよいのではないか。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

校舎を長寿命化して維持しながら、児童数の減少が現実的になった時に検討することでよいと思う。

- 小・中学校の統合については、授業の質や学習環境を保つために、1学年1クラスが維持できなくなることが判断の目安になるのではないかと。また、部活動が存続できなくなるかどうかひとつの判断材料になるが、部活動は、ソフト面での工夫により継続させる方策も考えられる。
- 施設を統合する際、一度に全ての施設を壊すのではなく、体育館やプールなどの施設は、長寿命化をして利用できる状態を維持しながら段階的に進めてほしい。
- 統合に合わせて、安全性に配慮した通学路の検討が必要になる。必要に応じて道路を拡幅するなどインフラの整備も検討しながら進めてほしい。
- 小学校の統合が決まった場合、途中で転校することで不便が生じないように、その時点で新入生になる児童は統合先に入学できるようにしてほしい。また、統合されてしまう学校に通学している児童については、卒業まで通学している学校で過ごせるように配慮してほしい。
- 本当の意味で配置の適正化を図るのであれば、蒲郡中学校と中部中学校を含む旧蒲郡町の広い区域で検討すべきである。
- 東部地域は、蒲郡南地区のなかでもひとつのコミュニティ、地域として成立しているために、東部保育園を別の小学校区に移すのは得策ではない。東部保育園、東部小学校、東部公民館は東部地域に機能を集合した方が馴染むと思う。
- 小江地区は、かつては蒲郡の中心地であったこともあり、地域活動が盛んで地区への愛着も強い。お祭りや敬老会のことなどを考えると、公民館を廃止したり集会所としての機能しか残らないということは避けたい。
- 小江公民館は神社前の立地であることから、お祭りの時に利用されている。また、日頃は高齢者をはじめとした地域の集いの場としても利用され

ている。そのため、現在の場所にあることと日頃から高齢者が歩いて行ける距離にあることが重要である。市が公民館として維持できなくなったとしても、地元管理で集会所として維持していく方法で現在の場所に残していくことが望ましい。

- 現在の公民館の建物がお祭りの時に集合場所としてなどの利用を継続することができるのであれば、公民館の機能は南部小学校の敷地に移転するのでも構わない。
- 小江公民館が集会所として地域に譲渡されるか否かについては、市が耐震状況や自主運営になった際の運営費用について地区へ示した上で、小江地区の住民で決めてほしい。また、その結果、耐震補強が必要であったり、地区の自主運営が難しい時は、市が相談に乗り一緒に検討してあげてほしい。
- 小江公民館を今後どうするかについては、小江地区の住民の意向を大切にしてほしいので意見を聞く場を設けてほしい。また、管理を地元に移行する場合は、運営体制や費用の準備が必要なため、地元でじっくり議論する場が必要だ。
- 小学校と公民館の機能を集合する方針になっているが、そもそも公民館は必要なのだろうか。利用率が低い公民館は、廃止を検討し、身近な集会所を充実させ、高齢者の利用を促す方がよいのではないか。高齢者にとっては、徒歩圏内に集える場所があることは大切である。
- 小学校と保育園の機能を集合するのであれば、児童の勉強の妨げにならぬよう、騒音の問題などは十分に配慮した配置にするなど、工夫して進めてほしい。
- 子育ての視点で考えるならば、保育園、小学校、児童クラブは保護者の送迎の手間を考えても、同じ敷地や近所にある方がよい。
- 南部小学校周辺は一方通行が多く、道幅も狭い。複合化などで更に利用者

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

が増え、車の交通量も増加するようであれば、通学路の確保も含め、安全面の配慮が必要である。

- 小学校の従来の通学距離の基準は4km以内となってはいるが、通学距離が長いと、その分、危険を伴うことになる。昨今の事件や道路事情などを考えると、小学校は、それぞれの自宅から徒歩圏内でできるだけ近い場所にある方がよい。
- 保育園については車で送迎している保護者が多く、立地よりは設備やサービスを重視して選択しているようだ。車利用が多いため、整備された道路や大きな駐車場が必要となる。複数の保育園に分散するよりは、小学校跡地などある程度敷地面積のある場所に保育園を集約した方が、車で利用しやすく効率的であるため良いと思う。
- 府相保育園は高潮浸水想定域に位置することから、安全面を考えるとできるだけ早くに移転した方がよい。
- 南部小学校に施設を複合化するのであれば、隣接する“生きがいセンター”を他の場所に移転させれば、校庭や駐車場等として敷地をより広く活用できるのではないか。

2) A案

【期待】

- 竹島小学校が南部小学校へ統合されたら、竹島小学校跡地を有効活用することができる。保育園、公民館機能を集合させる際、十分な駐車場を整備することができるだろう。さらに言えば、“+α”で子育て支援につながる機能を入れることができないだろうか。また、校舎をそのまま利用できるのであれば、コスト削減にもつながり合理的だろう。
- 小学校と児童クラブは、同じ敷地にある方が子どもの移動の負担もないのでよい。
- 小学校の統合は、公共施設面積の縮減の観点や部活動などの教育環境維持の観点からも必要なことである。まちの歴史を鑑みると、より歴史がある南部小学校に統合することが自然だと思うが、あくまでも判断基準のひとつではある。

【懸念】

- 前提条件であったように、府相公民館が竹島小学校の敷地へ移設し建て替わり、小学校としても機能が残ることで、今後の公共施設の再編のモデルケースになればと前向きに考えていたが、この案にすると、これまでの話し合いが振り出しに戻ってしまう。
- 東部保育園については、住まいの小学校区から別の小学校区に移転することで、安全面の懸念や保護者の送迎の負担がかかり望ましくない。特に、子どもたちを同じ学校区内の小学校と保育園に通わせている保護者は、学校区が異なることで送迎の負担が大きくなってしまう。保育園と小学校は、同じ場所にある方がよい。
- 南部小学校と南部保育園が近い位置にあるため、保護者の負担を考えると、これまでよりさらに南部保育園に園児が集中することが予想される。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

敷地は十分に確保できるのであろうか。

- 子育て層は子どもを竹島小学校に通学させることを見越して、竹島小学校周辺に新しく戸建が建築し、引っ越してきている。竹島小学校が南部小学校に移転することをその方たちはどう思うかが心配である。また、南部小学校に統合されることで、その周辺はマンションが建つなどまちの様子も変わるだろう。市としてこのようなまちの変化も見越して統合を考える必要がある。まちづくりの視点でも考えていかななくてはならない。

3) B案

【期待】

- 南部小学校が竹島小学校へ統合されたら、現在の南部小学校は、駅の近くであることから跡地については、A案よりもさらに有効活用することができだろう。豊橋市のココニコのような子育て機能を集合させて複合施設として整備することはできないだろうか。駐車場を整備した上で、何か特色のある施設ができるとよい。
- 小学校の統合は、公共施設面積の縮減の観点や部活動などの教育環境維持の観点からも必要なことである。配置バランスを考えると、竹島小学校に統合することが自然だと思うが、あくまでも判断基準のひとつではある。

【懸念】

- 南部小学校の敷地に多くの機能が集合する案となっているが、全ての機能が敷地内に収まるのかが心配である。手狭な施設となり利用しづらくなることは避けたい。機能に応じたスペースの確保をしてほしい。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

4) C案

【確認したいこと】

- 南部小学校の敷地に保育園や、将来的には蒲郡公民館も集合する案となっているが、現在の小学校の敷地内で収まるのか心配である。保育園も公民館も駐車場を必要とする施設であるため、小学校に隣接する“蒲南の森”の敷地を活用するなどしないと実現が難しいと思う。どのように考えているのかを知りたい。

5) D案

【期待】

- 府相保育園の園児の多くは竹島小学校の学校区内に住んでおり、竹島小学校に保育園の機能が集合するのは、保護者の送迎などを考えても負担が少なくてよい。

6) A、B案

【確認したいこと】

- 今回の市からの説明（学校規模についての法令上の規定等の説明）では、小学校のクラス数は12～18学級が標準とのことだが、単純に南部小学校と竹島小学校を統合すると24クラスとなる。統合する場合、このクラス数について、市はどのように考えているのかを知りたい。また、統合をした場合、それだけの児童を収容できる校舎と運動場を確保しながら、公民館と児童クラブの機能も集合することが可能なのだろうか。きちんと敷地の検討した上で案を出しているのか教えてほしい。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

7) A、C案

【期待】

- 小江公民館は譲渡を含めて活用方法を検討するのであれば、老朽化が進んでいることから市は、耐震補強や改修をしてから地域へ譲渡してほしい。

8) A、B、C案

【懸念】

- 同じ学校区内の保育園と小学校の立地については、どちらかを異なる学校区に移さずに、同じ学校区内で機能を集合させた方が、保護者の送迎面等で便利であるし、安心もできてよい。

9) B、C案

【懸念】

- 現在でも南部保育園は定員に達しており、手狭だと聞いている。南部保育園に府相保育園が統合されることで、全ての園児を受け入れることはできるのだろうか。受け入れ可能だとしても、園児が多すぎるのはサービスの質の維持が難しいのではないか。
- 府相保育園の園児の多くは竹島小学校区に住んでいるので、保育園が南部保育園に移転するのは、保護者の送迎の負担が増えるので良い策ではない。特に、竹島小学校区で小学生と保育園児を持つ保護者は、学校区が異なることで送迎の負担が増えることになるだろう。

10) C、D案

【期待】

- 小学校を統合しない案は、通学の面では児童の負担もなく、学校区と行政区についても大きな変更が生じないことから、地域の負担もなくてよいと思う。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

【懸念】

- 公共施設面積縮減などの観点から、小学校の統合が必要であると考えため、C案、D案は、好ましくない。

1 1) B、C、D案

【期待】

- 東部保育園、東部小学校、東部公民館はもともと近距離で東部地域としてまとまりがある。保育園と小学校がバラバラになることで、送迎の負担となるといったデメリットがなく、むしろ機能を集めることで便利になるのではいいのではないか。

1 2) その他

- 複合施設を建設する際は、それぞれ集約する機能の面積を十分確保できることを確認した上で進めてほしい。また、小学校建替え期間の暫定校舎や運動場についても、教育環境に悪影響がないよう、現在同様の空間を確保してほしい。
- 東部小学校の建て替えの際には、校舎と体育館の間にある道路の付け替えなどを検討すべきである。
- 公民館運営の人員が不足しており、施設の維持管理はどの地域でも大変な状況である。運営面で文部科学省から表彰されている形原公民館など、参考にしていきたい。
- 各案については、コスト比較を提示してもらった上で検討したい。

2

評価の視点

1) 8つの視点について

① 地域での活動・交流の盛り上がり

- “中高生などの若い世代の集まる場所の整備”の視点のみが世代別では重要であると示されているように感じてしまう。中高生に特化せずに、各世代で集まる場所を整備してほしい。そうしないと地域活動は盛んにならない。
- “中高生などの若い世代の集まる場所の整備”を運営面で具体的に考えると、インターネットに接続できる Wi-Fi 環境が整っていることや、音楽演奏やダンスの練習ができる場所などがあげられる。
- 公民館でも中学校でもよいので、公共施設で中学生が自由に利用できる場所があるかも重要である。その際、夜間 20 時頃までは勉強したり、集まっておしゃべりができる場であった方がよいだろう。

③ 子育てしやすい環境づくり

- 乳幼児・未就園児が安心して身体を使って遊べる環境（場所・広さ）があるかも重要である。
- 保育園・小学校・児童クラブ等の子育て関連の機能が集約されていて、保護者の送迎が効率的に行えるかなど、アクセス面での利便性も大切である。

④ 高齢者のにぎわい

- 高齢者の孤立化を防ぐためにも、高齢者が利用する公民館や地区集会所などの施設まで徒歩で行けるかなど、アクセス面での利便性も大切である。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

⑤ 安全の確保（地域防災・利用者の安全）

- 災害時の安全面を考えると、府相保育園を早急に移転する必要がある。どこに移転するかよりも、どれだけ早く移転ができるかの視点が重要になる。
- 公共施設に利用者が安心して通えるよう、周辺道路などが整備されているかどうかの視点が重要である。
- 「複合化によって施設の共有が生じた際、セキュリティ（安全）面の配慮がなされているか」は大切である。それぞれの施設は独立し、仕切られていることが理想である。

（視点全体）

- 評価の視点8つ全てを同じ重要度で考えるのではなく、蒲郡南地区として特に優先すべき視点があるはずである。一番重要に思う視点は、「安全の確保（地域防災・利用者の安全）」だと思う。

第3回ワークショップ ふりかえりシートご意見

1 今日の議論で良かったこと

- 各案について地域問題も含めてディスカッションできて楽しかった。
- 小学校の統廃合は考えていなかったのですが、確かに老朽化で、子ども達の安全を考えるのであれば、仕方無いのかも…。ただし空いた土地に子育てに特化した複合施設を建てて欲しい（例 豊橋ココニコ）。駅から歩いていければ駐車場をとる必要もないし、駅周辺の活性化にもなるし。
- A、B、C、D案と、具体案を見て、以前より、より踏み込んで話し合いができたことが良かったです。
- 思った事が言えた。
- ワークショップに参加される方はしっかりした考えをもっているなと感心します。
- 話し合うということに徐々に慣れてきて、活発な議論ができました。
- 建物やその利用、土地に関する歴史的な背景を知ることができた点
- 年配の方から歴史的な話が伺えて良かったと思います。
- ファシリテーターの方が、参加者の人に質問をして皆が意見を言いやすい環境を作ってくれたので良かったです。
- 具体的なプラン（案）があったので、話し合いがしやすかった。蒲南、竹島地区と比べると、東部地区は、すでに、統合されている様に思った。小学校の裏に保育園はあるし、近くに公民館もある。
- A、B、C、D案については話ができたと思う。
- 8つの評価の視点は次からも使うのでもっとしっかり話し合いたかった。内容がぼやけていると思う
- 単純な統合を自分たちで決められる問題ではないことをグループ全体の共通認識できたこと

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 全員の意見を聞く事が出来た。
- 学校の統合という点では、光が見えて来たような気がしますが、どうしても跡地の利用等の事も考えることができそうなこと（図書館、体育館）考えてほしい。
- いろいろな意見を聞くことができた。
- 小中学校のクラス数（蒲南 12+竹島 12=24）について、24 にはならないと思う。クラスについての資料の下に、クラスの計算のしかた（小1年生は～20 人とか）を書くとう理解しやすいと思う。
- 具体的なプラン A、B、C、D 案出され検討しやすかった。一長一短ですが…

2 内容について言い足りなかったこと

- 早急に判断が必要な施設はどこですか？
- 西浦・塩津地区について、再配置プラン→パブリック・コメントとなっていました。地区への説明会はオープンハウス以外に行うのでしょうか。
- いろいろとありすぎてまとまらず言いたいことの半分ぐらいだった
- 各小学校区の地図があると良かったと思います。
- 世代間交流はとても大事だと思うのですが、施設利用者の年齢層をもう少し明確にして対象にしないと、施設を利用しにくくなる層の方ができてしまうのではないか感じました。
- 統合後の施設のセキュリティの面をもう少し意識できると、もっと良いプランになると思いました。→そういったプランができると、統合に向けた現実性が一気に増すと思います。
- 「子育てにやさしい町」にするために・子どもの遊びやすさ（0～12才）・中学生の居場所・子育てのしやすさ（おむかえの時短など）を一番に考えたい。
- <蒲郡児童館の課題>・駐車場がたりない・外の遊び場がない・乳幼児が午後になると身体を使って遊ぶ場所がなくなってしまう・小学生が来ると手ぜま・中学生がいる場がない
- 保育園の2、3才児はまだ増えると思うー南部、府相
- 中学又は児童館と一緒にになりたい公民館はないだろうか？面白いことができると思いますが…
- 建物の長寿命化（名古屋市東志賀小学校の例）
- A～D 案によりどれ位の効果が期待出来るのか資料として提出してほしい。
- あらためて中部中学区と蒲中学区を合わせて案をだした方が良くと思う。
- 蒲郡北部と合同でお願いしたい。蒲郡は蒲郡・三谷・塩津・大塚・形原・西浦の地域割けと思う。

ご質問等への回答

- 今回の市からの説明（学校規模についての法令上の規定等の説明）では、小学校のクラス数は 12～18 学級が標準とのことだが、単純に南部小学校と竹島小学校を統合すると 24 クラスとなる。統合する場合、このクラス数について、市はどのように考えているのかを知りたい。また、統合をした場合、それだけの児童を収容できる校舎と運動場を確保しながら、公民館と児童クラブの機能も集合することが可能なのだろうか。きちんと敷地の検討した上で案を出しているのか教えてほしい。
- 小中学校のクラス数（蒲南 12+竹島 12=24）について、24 にはならないと思う。（ふりかえりシートより）

【小学校が統合した場合のクラス数について】

前回ワークショップでお示しした資料「児童生徒数推計」では「クラス数換算」を掲載しました。これは、小学校について、1 学年平均 35 人以下の場合は 6 クラス（1 学年 1 クラス）、35 人より多く 70 人以下の場合は 12 クラス（1 学年 2 クラス）、70 人より多く 105 人以下の場合は 18 クラス（1 学年 3 クラス）と計算しています。

同じ方法で南部小学校と竹島小学校が統合した場合を計算すると、「目標値ベース」、「社人研推計値ベース」とともに、24 クラスとはならず 18 クラスとなります。（下表参照）

表 蒲郡南地区の児童生徒数推計

	平成30年度		目標値ベース30年後			社人研推計値ベース30年後		
	児童生徒数（人）	普通学級クラス数	児童生徒数（人）	学年換算（人）	クラス数換算	児童生徒数（人）	学年換算（人）	クラス数換算
南部小	332	12	287	47.8	12	228	38.0	12
東部小	284	12	246	41.0	12	195	32.5	6
竹島小	329	12	285	47.5	12	226	37.7	12
蒲郡中	517	15	447	149.0	15	355	118.3	12
南部小・竹島小統合	661	22	572	95.3	18	454	75.7	18

※ 第3回ワークショップ資料「児童生徒数推計」から抜粋して作成した。
ただし、「南部小・竹島小統合」の各数値は、南部小と竹島小の児童数を合計して他の学校と同じ方法で新たに算出した。なお、平成30年度の普通学級クラス数は、学年ごとの児童数に基づき算出した。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

【敷地内への配置について】

各案とも、必要な床面積を見積もり、敷地内への配置が可能か検証した上で、案として提示しています。

敷地内の配置の見直しや床面積の適正化、階層を増やすことなどにより、必要な機能を備えた施設の設置が可能です。

- 早急に判断が必要な施設はどこですか？（ふりかえりシートより）

【建替えが必要な時期について】

一般的に、高度経済成長期に建てられた鉄筋コンクリート造の建物の寿命は、60年程度とされており、長寿命化工事を施しても80年程度と考えられています。

蒲郡南地区の地区利用型施設を構成する主要な建物の中で、今年時点で築50年以上経過している建物は、以下の建物です。

- ・ 南部小学校北棟東（S34年建設／築59年）…主に普通教室として利用
- ・ 蒲郡中学校管理棟（S36年建設／築57年）…主に普通教室として利用
- ・ 蒲郡中学校南教室棟（S43年建設／築50年）…主に特別教室として利用
- ・ 蒲郡中学校体育館（S37年建設／築56年）

これらの建物を含め、蒲郡市の公共施設は、高度経済成長期に建てられた建物が多く、これらが近い将来に一斉に建替え時期を迎えるため、計画的に公共施設マネジメントの取り組みを進めることが重要です。

- 小学校を統合するかしないかを検討するのであれば、統合した場合は費用がどの程度削減できるかなど、統合することでのメリット、デメリットを確認した上で検討をしたい。

【学校規模によるメリット・デメリット】

文部科学省が作成した一般的な学校規模によるメリット・デメリットがまとめられた資料を掲載しますので参考にしてください。（p.19に掲載）

費用については、本日の資料のLCC（ライフサイクルコスト）試算（別冊資料「項目ごとの評価の解説」p.16～20）を参考にしてください。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

学校規模によるメリット・デメリット(例)

※ 学校の適正配置に関して都道府県・市町村が作成している計画等を参考に文部科学省において作成

	小規模化		大規模化	
	メリット	デメリット	メリット	デメリット
【学習面】	○ 児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	○ 集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ○ 1学年1学級の場合、ともに努力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい。	○ 集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばしやすい。	○ 全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。
	○ 学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。	○ 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ○ 中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。 ○ 児童・生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りにくい。	○ 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい。 ○ 中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しやすい。 ○ 児童・生徒数、教員数がある程度多いため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りやすい。	○ 学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しにくい。
		○ 部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。	○ 様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい。	
【生活面】	○ 児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ○ 異学年間の縦の交流が生まれやすい。	○ クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ○ 集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。 ○ 切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。	○ クラス替えがしやすいことなどから、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。 ○ 切磋琢磨すること等を通じて、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい。	○ 学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい。
	○ 児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	○ 組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。	○ 学校全体での組織的な指導体制を組みやすい。	○ 全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。
【学校運営面・財政面】	○ 全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 ○ 学校が一体となって活動しやすい。	○ 教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。 ○ 学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。 ○ 一人に複数の校務分掌が集中しやすい。 ○ 教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。	○ 教員数がある程度多いため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた教職員配置を行いやすい。 ○ 学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いやすい。 ○ 校務分掌を組織的に行いやすい。 ○ 出張、研修等に参加しやすい。	○ 教職員相互の連絡調整が図りづらい。
	○ 施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。	○ 子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりやすい。	○ 子ども一人あたりにかかる経費が小さくなりやすい。	○ 特別教室や体育館等の施設・設備の利用の面から、学校活動に一定の制約が生じる場合がある。
【その他】	○ 保護者や地域社会との連携が図りやすい。	○ PTA活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。	○ PTA活動等において、役割分担により、保護者の負担を分散しやすい。	○ 保護者や地域社会との連携が難しくなりやすい。

文部科学省ホームページから転載

- （C案について）南部小学校の敷地に保育園や、将来的には蒲郡公民館も集合する案となっているが、現在の小学校の敷地内で収まるのか心配である。保育園も公民館も駐車場を必要とする施設であるため、小学校に隣接する“蒲南の森”の敷地を活用するなどしないと実現が難しいと思う。どのように考えているのかを知りたい。

【C案の敷地について】

C案は、現在の南部保育園を拡張して府相保育園の利用者を取り込み、蒲郡公民館の建替え時期には公民館の機能を小学校に移転することも想定して作成した案です。

現在の南部小学校と南部保育園の敷地を一体的に活用し、建替えの際の敷地内の配置の見直しや規模の適正化により敷地を確保することを想定しています。

- 西浦・塩津地区について、再配置プラン→パブリック・コメントとなっていました。地区への説明会はオープンハウス以外に行うのでしょうか。（ふりかえりシートより）

【検討の進捗や地区個別計画の内容についての地区住民への説明について】

地区個別計画の検討段階では、かわら版やオープンハウス（パネル展示型説明会）により、検討状況をお知らせするとともにご意見をいただく取り組みを行っています。

塩津地区と西浦地区では、計画案の内容について、ワークショップ参加者や総代を対象とする説明会を開催するとともに、パブリックコメントにより広くご意見を募集しました。また、計画策定後には「公共施設マネジメントニュース」を市内全世帯に配布し、計画の内容の説明を行いました。

- 各小学校区の地図があると良かったと思います。（ふりかえりシートより）

【小学校区の区域図について】

小学校区の区域が分かる地図を各テーブルに用意します。参考にして下さい。

評価の視点についてのご意見への回答

ご意見	回答
中高生に特化せずに、各世代で集まる場所を整備してほしい。 【視点①地域での活動・交流の盛り上がり】	項目イ「地区住民同士や異なる世代間の交流機会は生まれやすくなったか。」という項目に含むものとして整理しました。
- 中高生などの若い世代の集まる場所の整備を運営面で考えると、インターネットに接続できるWi-Fi環境が整っていることや、音楽演奏やダンスの練習ができる場所などがあげられる。 - 公共施設で中学生が自由に利用できる場所があるかも重要だ。 【視点①地域での活動・交流の盛り上がり】	- 項目ウ「中高生など若い世代が集まり活動・交流しやすくなったか。」として整理していますが、再配置により現状より向上または低下する要因が無いため、すべての案を「現状維持」の評価にしています。 - ご意見にある対策は、施設の配置でなく、機能や運営面での工夫に該当することから、プランの比較・絞り込みを行った後に、付帯事項（施設の再配置を実施後に配慮しなければならない事項）として検討し、整理していきます。
乳幼児・未就園児が安心して身体を使って遊べる環境（場所・広さ）があるかも重要だ。 【視点③子育てしやすい環境づくり】	- 評価の項目として検討しましたが、公共施設の再配置による変化が想定されないため、評価の項目には加えておりません。 - 各案の配置を前提とした付帯事項（施設の再配置を実施後に配慮しなければならない事項）として、ご意見をいただければと考えております。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

ご意見	回答
・ 保育園・小学校・児童クラブ等の子育て関連の機能が集約されていて、保護者の送迎が効率的に行えるかなど、アクセス面での利便性も大切だ。 【視点③子育てしやすい環境づくり】	・ まとめて送迎ができることによる利便性を項目コ「保育園児や小学生を同時に送迎しやすくなったか。」で評価しました。
・ 高齢者の孤立化を防ぐためにも、高齢者が利用する公民館や地区集会所などの施設まで徒歩で行けるかなど、アクセス面での利便性も大切だ。 【視点④高齢者のにぎわい】	・ 項目ト「公民館に高齢者が徒歩でアクセスしやすい配置になっているか。」において、公民館の周辺高齢者人口で評価しました。
・ 災害時の安全面を考えると、府相保育園を早急に移転する必要がある。どこに移転するかよりも、どれだけ早く移転できるかの視点が需要だ。 【視点⑤安全の確保（地域防災・利用者の安全）】	・ 項目タ「高潮・津波の想定浸水域に立地している施設が速やかに移転できる配置になっているか。」で評価しました。
・ 公共施設の利用者が安心して通えるよう、周辺道路などが整備されているかどうかの視点が重要だ。 【視点⑤安全の確保（地域防災・利用者の安全）】	・ 保育園の送迎に、「車利用が多いため、整備された道路や大きな道路が必要となる。」とのご意見もいただいていたことから、項目サ「保育園に自動車で送迎しやすくなったか。」で、周辺道路環境を含めて評価することとしました。 ・ 今後の周辺道路の整備等は、各案の配置を前提とした付帯事項（施設の再配置を実施後に配慮しなければならない事項）としてプランの比較・絞り込みを行った後に検討し、整理していきます。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

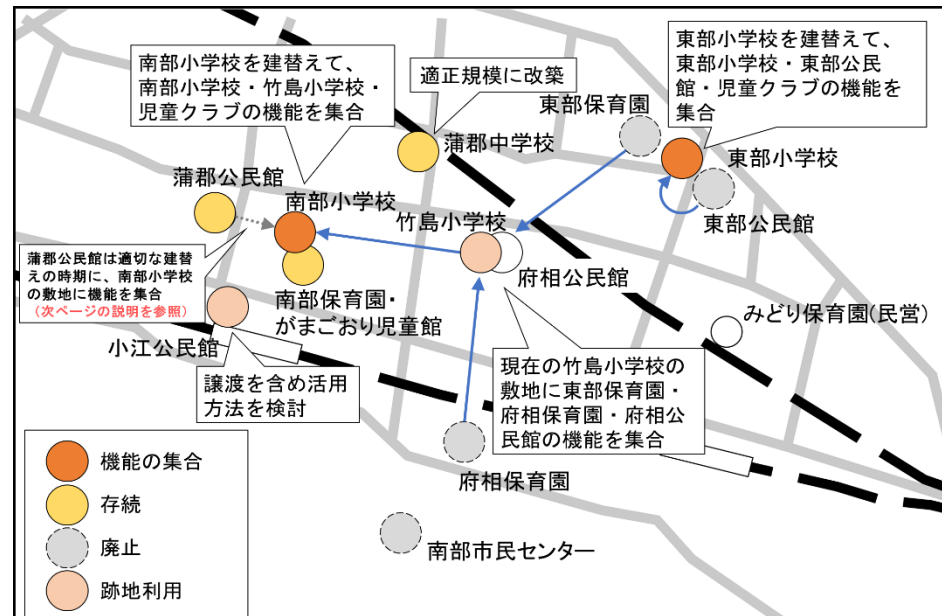
ご意見	回答
「複合化によって施設の共有が生じた際、セキュリティ（安全）面の配慮がなされているか」が大切だ。 【視点⑤安全の確保（地域防災・利用者の安全）】	項目ツ「利用者の防犯面での安全性は確保されているか。」で評価していますが、各案とも防犯対策を施すことを前提に整備を実施するため一律の評価結果としています。
評価の視点8つ全てを同じ重要度で考えるのではなく、蒲郡南地区として特に優先するべき視点があるはずだ。一番重要だと思う視点は、「安全の確保（地域防災・利用者の安全）」だと思う。 【視点全体】	各視点はワークショップでいただいたご意見をまとめて整理したものであり、どれも重要なものであると受け止めています。恣意的な評価とならないよう、重みづけはせず、客観的な評価を行いました。

A

学校規模を維持し教育の拠点と子育ての拠点をつくるプラン

【重点を置いた解決策】③④⑩

- 蒲郡南部小学校の敷地に、蒲郡南部小学校、竹島小学校、児童クラブの機能を集め、教育の拠点をつくります。蒲郡公民館については、適切な建替え時期に機能を集合します。
- 現在の竹島小学校の敷地に、東部保育園、府相保育園、府相公民館の機能を集め、保育と地域活動の拠点をつくります。
- 蒲郡東部小学校の敷地に、蒲郡東部小学校、東部公民館機能を集めます。
- 小江公民館は、公民館機能を廃止し、建物は、地元自治会への譲渡を含め活用方法を検討します。



特徴

- 小学校を統合することで、一定の規模を維持することができる。
 - 現在の竹島小学校の敷地に有効活用でき、保育園の園庭や駐車場に余裕がありアクセスしやすい保育と地域活動の拠点ができる。また、当該敷地の交通利便性の高さも生かして、大型公共施設の配置等が可能な余剰地が生まれる。
- 【関連する解決策】②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫

課題

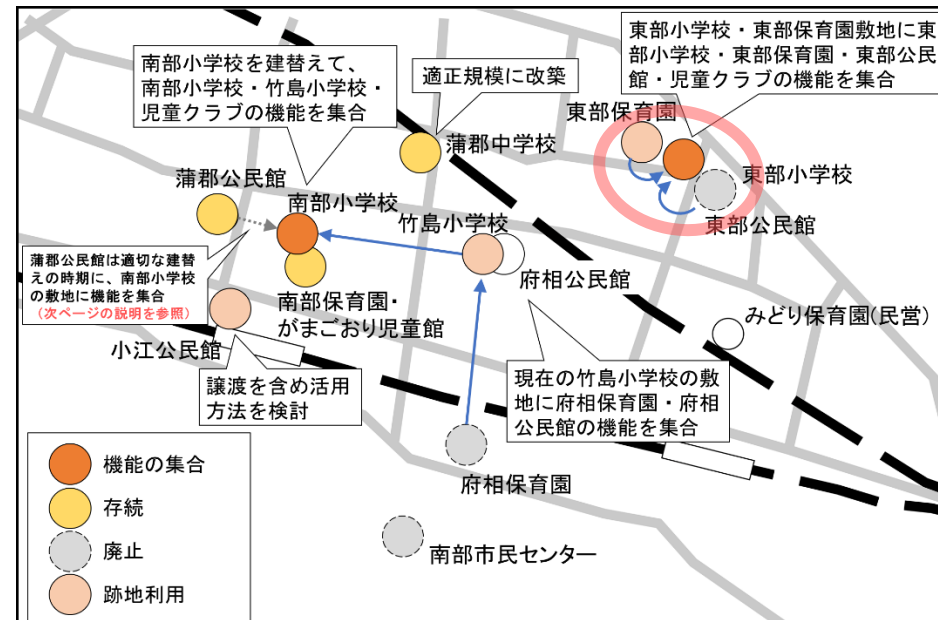
- 小学校や保育園への徒歩でのアクセス性が低下する地域が存在する。
- 小江公民館の建物の活用方法の検討が必要である。
- 津波・高潮の浸水域に立地する府相保育園を当面現地で存続させるため、移転するまでの安全対策が必要である。

ご意見に基づく追加プラン

A'

A案の東部保育園の位置を変更したプラン

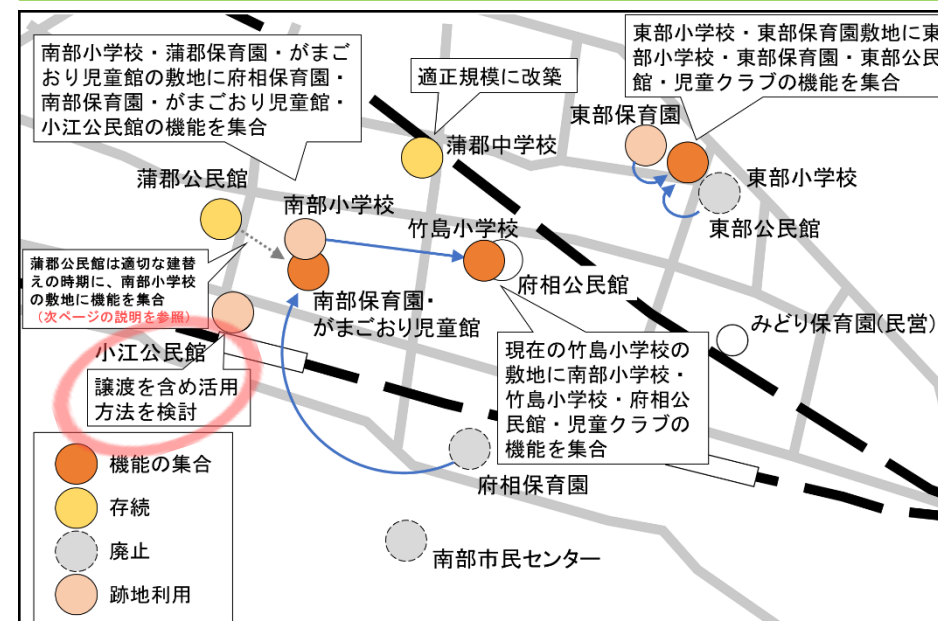
- 蒲郡東部小学校・東部保育園の敷地に、蒲郡東部小学校と東部保育園、東部公民館の機能を集め、東部地域の拠点をつくります。



B'

B案の小江公民館を「譲渡を含め活用方法を検討」に変更したプラン

- 小江公民館は、公民館機能を廃止し、建物は、地元自治会への譲渡を含め活用方法を検討します。



特徴

- 小学校を統合することで、一定の規模を維持することができる。
 - 竹島小学校で実践される学校と地域との連携が強化される。
 - 保育園・児童館・公民館の機能が集まり、子育てに関することを中心に多様な活動ができる拠点ができる。
- 【関連する解決策】②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫

課題

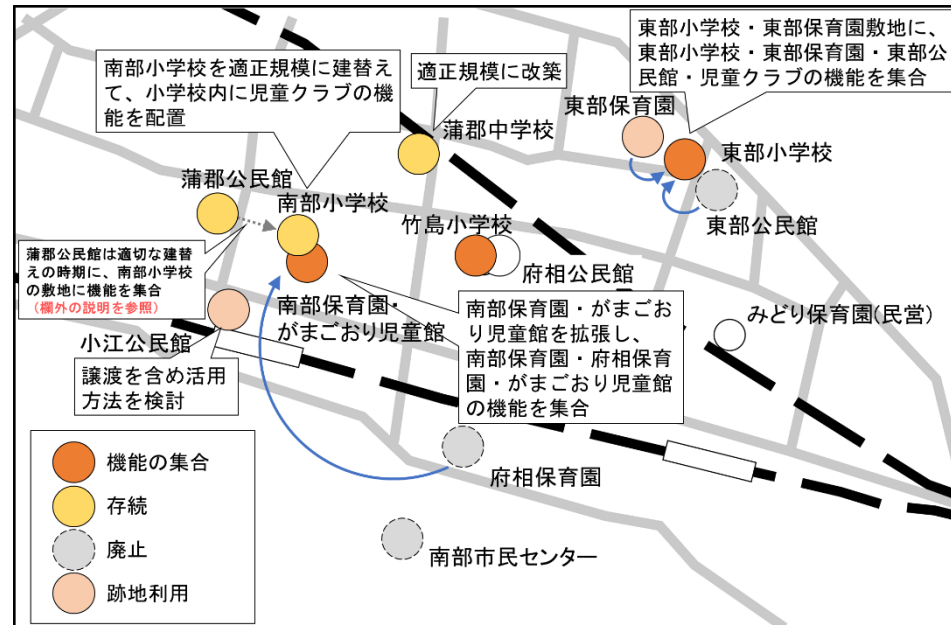
- 小学校や保育園への徒歩でのアクセス性が低下する地域が存在する。

C

徒歩でのアクセスを維持するプラン ①

【重点を置いた解決策】⑦⑨

- 蒲郡南部小学校を適正規模に建替え、児童クラブ機能を配置します。蒲郡公民館については、適切な建替え時期に機能を集合します。
- 蒲郡東部小学校・東部保育園の敷地に、蒲郡東部小学校、東部保育園、東部公民館の機能を集め、東部地域の拠点をつくります。
- 南部保育園・がまごおり児童館を拡張し、南部保育園、府相保育園、がまごおり児童館の機能を集めます。
- 小江公民館は、公民館機能を廃止し、建物は、地元自治会への譲渡を含め活用方法を検討します。



特徴

- 小学校が現地に残るため、各学校への通学アクセスが保たれる。
- 各小学校に公民館機能が集まることで、地域での活動・交流が活性化する。
- 東部地域としてのまとまりが保たれる。

【関連する解決策】②④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪

課題

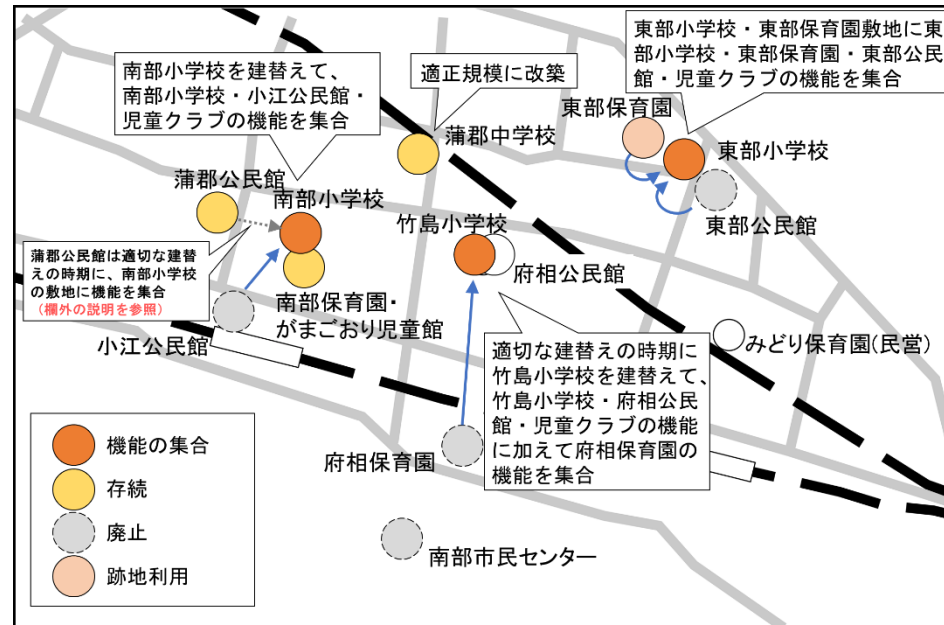
- 学校数を維持するため、費用負担が大きい。また、児童数の減少に伴い、子ども同士の交流機会や部活動の選択肢の減少が予想される。
- 小江公民館の建物の活用方法の検討が必要である。

D

徒歩でのアクセスを維持するプラン ②

【重点を置いた解決策】②⑨

- 蒲郡南部小学校の敷地に、蒲郡南部小学校、小江公民館、児童クラブの機能を集めます。蒲郡公民館については、適切な建替え時期に機能を集合します。
- 竹島小学校の適切な建替えの時期に、竹島小学校、府相公民館の機能に加え府相保育園の機能を集合させます。
- 蒲郡東部小学校・東部保育園の敷地に、蒲郡東部小学校と東部保育園、東部公民館の機能を集め、東部地域の拠点をつくります。



特徴

- 各小学校に公民館機能が集まることで、地域での活動・交流が活性化する。
- 小学校・保育園・公民館への徒歩でのアクセスしやすさが保たれる。
- 東部地域としてのまとまりが保たれる。

【関連する解決策】②④⑤⑥⑧⑨⑩⑪

課題

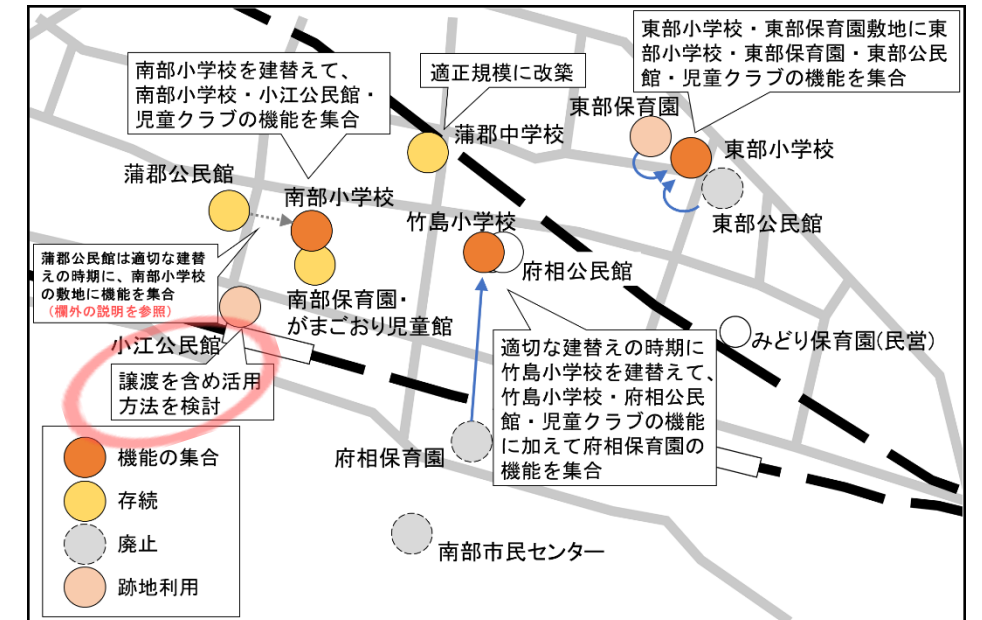
- 学校数を維持するため、費用負担が大きい。また、児童数の減少に伴い、子ども同士の交流機会や部活動の選択肢の減少が予想される。
- 津波・高潮の浸水域に立地する府相保育園を当面現地で存続させるため、移転するまでの安全対策が必要である。

ご意見に基づく追加プラン

D'

D案の小江公民館を「譲渡を含め活用方法を検討」に変更したプラン

- 小江公民館は、公民館機能を廃止し、建物は、地元自治会への譲渡を含め活用方法を検討します。



(蒲郡公民館の扱いについて)

全ての案で、「蒲郡公民館は、適切な建替えの時期に、南部小学校の敷地に機能を集合」とし、点線の矢印で表現していますが、これは、現状の建物が耐久性を保てる期間は活用し、老朽化等により活用が難しくなった段階で、南部小学校に機能移転することを想定しているものです。

ただし、蒲郡公民館は、平成 26 年に建設された新しい建物であり、今後、長期間にわたり現地で存続させることが適当であることから、地区個別計画に機能移転等についての計画を記載する予定はありません。

なお、蒲郡南地区（蒲郡中学校区）に限らず、蒲郡北地区（中部中学区）の多くの住民の皆様（特に公民館が無い中央小学校区の住民の皆様）も蒲郡公民館を利用しているため、蒲郡北地区の住民の皆様のご意見もお聴きした上で、市は、蒲郡公民館の機能の将来の配置等について検討していきます。

再配置プラン案の評価検証

1 再配置プラン案を比較評価するための評価軸

視 点	内 容	評価項目
① 地域での活動・交流の盛り上がり	● 地域コミュニティの中心となる施設が整備されているか。 ● 世代間交流が活性化される施設配置となっているか。 ● 中高生など若い世代が集まれる場所は整備されているか。	ア 地域のコミュニティの中心となる施設があるか。（現在の小学校区程度の範囲に誰でも集まれ、地域の活動ができる場所があるかを評価） イ 地区住民同士や異なる世代間の交流機会は生まれやすくなったか。（施設同士の位置関係で評価） ウ 中高生など若い世代が集まり、活動・交流しやすくなったか。
② 学校教育環境の適正化	● 適切な学校規模が維持されているか。 ● 学習環境や活動内容が充実しているか。 ● 学校の配置は適切か。	エ 適切な学校規模が維持されているか。（30年後の学校規模を国の基準にあてはめて評価） オ 小学校の学習環境や活動内容は充実しているか。 カ 小学生の通学しやすさは保たれているか。（小学校の周辺年少人口で評価） キ 子ども達の地域とのつながりは強まっているか。（学校と公民館の関係で評価）
③ 子育てしやすい環境づくり	● 活気のある子どもや親の活動拠点はできているか。 ● 子育てしやすい環境が整備されているか。	ク 子育てに関する様々な活動がまとめて行える子育ての拠点ができているか。（小学校・保育園・児童館の位置関係で評価） ケ 放課後や休日に小学生が遊ぶ場所は充実しているか。（児童館や公民館の小学校との位置関係で評価） コ 保育園児や小学生を同時に送迎しやすくなったか。（保育園と児童クラブ機能の位置関係で評価） サ 保育園に自動車で送迎しやすくなったか。（保育園の周辺道路環境と駐車場の確保しやすさで評価） シ 小学生にとって児童クラブが利用しやすくなったか。（児童クラブ機能と小学校の位置関係で評価）
④ 高齢者のにぎわい	● 高齢者同士で活発に活動したり、互いに支え合う環境は充実したか。 ● 高齢者が地域と関わりを持ちやすいか。	ス 高齢者が活躍できる機会は増えたか。（公民館の周辺環境の充実度で評価） セ 高齢者が地域との関わりを持ちやすくなったか。（公民館と他施設の評価）
⑤ 安全の確保（地域防災・利用者の安全）	● 安全の確保された立地となっているか。 ● 避難所・避難場所の数や位置は適切か。 ● 機能が集合した施設の防犯対策・安全面への配慮がされているか。	ソ 津波・高潮の危険を避けられる施設の配置になっているか。 タ 津波・高潮の想定浸水域に立地している施設が速やかに移転できる配置になっているか。 チ 災害時の避難所・避難場所は確保されているか。 ツ 利用者の防犯面での安全は確保されているか。
⑥ 利便性の確保	● 1カ所で多様な活動が行えるようになったか。 ● 各所から通いやすい施設配置となっているか。 ● 駐車スペースは十分確保されているか。	テ 1カ所で多様な活動が行えるようになったか。 ト 公民館に高齢者が徒歩で利用しやすい配置になっているか。 ナ 公民館に駐車場は十分に確保されるか。
⑦ 将来負担の縮減	● 維持更新費用・運営費用は縮減されているか。	一定期間の施設にかかる総コストが低いものを評価する。 ・面積が小さいなど、建替え・改築費・改修費・修繕費が安価な場合は総コストが低くなる。 ・土地の売却や借地の返還が発生する場合は、総コストが低くなる。 ・面積が小さいなど、建物の維持管理費（光熱費・保守点検費等）が安価な場合は総コストが低くなる。

2 評価方法

- 視点①～⑥については、評価項目ごとに ◎：現状より向上、○：現状維持もしくは一長一短がある、△：現状より低下 の3段階で評価します。
- 視点⑦については、LCC（ライフサイクルコスト）の試算における50年間の縮減額に基づき評価します。（試算の結果及び条件等は別冊資料「項目ごとの評価の解説」p.16～20のとおり。）
- 府相公民館は、竹島小学校敷地への移転・建替えが実行されている状態を前提として評価しています。
- 蒲郡公民館は、現地で現状のまま存続するものとして評価しています。

3 項目ごとの評価結果

視点	評価項目	A 案	A'案	B 案	B'案	C 案	D 案	D'案
① 地域での活動・交流の盛り上がり	ア 地域のコミュニティの中心となる施設があるか。（現在の小学校区程度の範囲に誰でも集まれ、地域の活動ができる場所があるかを評価）	○	○	○	○	○	○	○
	イ 地区住民同士や異なる世代間の交流機会は生まれやすくなったか。（施設同士の位置関係で評価）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	ウ 中高生など若い世代が集まり、活動・交流しやすくなったか。	○	○	○	○	○	○	○
② 学校教育環境の適正化	エ 適切な学校規模が維持されているか。（30年後の学校規模を国の基準にあてはめて評価）	○	○	○	○	○	○	○
	オ 小学校の学習環境や活動内容は充実しているか。	○	○	○	○	△	△	△
	カ 小学生の通学しやすさは保たれているか。（小学校の周辺年少人口で評価）	○	○	○	○	○	○	○
	キ 子ども達の地域とのつながりは強まっているか。（学校と公民館の関係で評価） ※	△	△	◎	◎	○	◎	○
③ 子育てしやすい環境づくり	ク 子育てに関する様々な活動がまとめて行える子育ての拠点ができているか。（小学校・保育園・児童館の位置関係で評価）	△	○	△	△	◎	◎	◎
	ケ 放課後や休日に小学生が遊ぶ場所は充実しているか。（児童館や公民館の小学校との位置関係で評価）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	コ 保育園児や小学生を同時に送迎しやすくなったか。（保育園と児童クラブ機能の位置関係で評価）	△	○	△	△	◎	◎	◎
	サ 保育園に自動車で送迎しやすくなったか。（保育園の周辺道路環境と駐車場の確保しやすさで評価）	◎	◎	◎	◎	△	○	◎
	シ 小学生にとって児童クラブが利用しやすくなったか。（児童クラブ機能と小学校の位置関係で評価）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
④ 高齢者のにぎわい	ス 高齢者が活躍できる機会は増えたか。（公民館の周辺環境の充実度で評価） ※	○	○	◎	○	○	◎	◎
	セ 高齢者が地域との関わりを持ちやすくなったか。（公民館と他施設の評価） ※	○	○	◎	◎	○	◎	◎
⑤ 安全の確保（地域防災・利用者の安全）	ソ 津波・高潮の危険を避けられる施設の配置になっているか。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	タ 津波・高潮の想定浸水域に立地している施設が速やかに移転できる配置になっているか。	○	○	◎	◎	◎	○	○
	チ 災害時の避難所・避難場所は確保されているか。	○	○	○	○	○	○	○
	ツ 利用者の防犯面での安全は確保されているか。	○	○	○	○	○	○	○
⑥ 利便性の確保	テ 1カ所で多様な活動が行えるようになったか。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	ト 公民館に高齢者が徒歩で利用しやすい配置になっているか。	○	○	○	○	○	○	○
	ナ 公民館に駐車場は十分に確保されるか。	◎	◎	◎	○	○	○	○
⑦ 将来負担の縮減	LCC（ライフサイクルコスト）試算における50年間の縮減額（単位：百万円）	5,136	3,716	3,799	4,264	2,153	1,388	1,871
	◎の個数	7	7	11	9	8	10	10
	○の個数	11	13	8	10	11	10	10
	△の個数	3	1	2	2	2	1	1

※印の項目（キ・ス・セ）は、東部地域に限定して検証すると、全ての案が同条件で、「現状より向上」となるため、東部地域以外の施設を対象として評価した。

評価結果点数表（参考）

- 視点①～⑥については、各評価項目の ◎=2点、○=1点、△=0点として足し合わせ、75点に得点割合を乗じた値を下表のⅠにまとめました。
- 視点⑦については、50年間のLCC（ライフサイクルコスト）の縮減額の最も高い案を25点とし、その他の案は縮減額に比例して減点した値を下表のⅡにまとめました。
- ⅠとⅡを足し合わせ100点満点で合計を計算しました。

Ⅰ 地区の魅力や安全に関する項目（視点①～⑥）についての評価 （75点満点）

A案	A'案	B案	B'案	C案	D案	D'案
44.64	48.21	53.57	50.00	48.21	53.57	53.57

Ⅱ 将来負担に関する項目（視点⑦）についての評価 （25点満点）

A案	A'案	B案	B'案	C案	D案	D'案
25.00	18.09	18.49	20.76	10.48	6.76	9.11

縮減額 (5,136 百万円) (3,716 百万円) (3,799 百万円) (4,264 百万円) (2,153 百万円) (1,388 百万円) (1,871 百万円)

合計（Ⅰ＋Ⅱ） （100点満点）

A案	A'案	B案	B'案	C案	D案	D'案
69.64	66.30	72.06	70.76	58.69	60.33	62.68

本日の検討内容

前回のご意見を反映させ作成した追加案を加えた合計 7 つの再配置プラン案をご意見にもとづく「評価の視点」を踏まえて評価しました。

評価の内容について修正点や配慮すべき点などがありますか。

次回ワークショップのご案内

「第5回蒲郡南地区まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」
を以下のとおり開催いたしますので、ご参加下さいますようお願いいたします。

1 日時

平成31年2月10日（日）

午後1時30分～午後4時30分（開場：午後1時15分）

2 会場

蒲郡中学校 本館 3階図書室

3 お願い

- ・ 次回ワークショップの資料を郵送で事前に配布いたしますので当日ご持参下さい。
- ・ 欠席される場合は、事務局までご連絡願います。

【ワークショップ事務局】

蒲郡市総務部財務課 担 当：小野・大森・星野

電 話：0533-66-1158

ファクス：0533-66-1183

E-mail：zaimu@city.gamagori.lg.jp